

交通事業経営ビジョンにおける主要施策の取り組み状況と評価

| 基本方針 | 施策目標 (経営ビジョン該当頁) | 主要施策 | 取り組み状況(R4) | これまでの取り組み状況(H29~R4) | 累積評価 |
|-------------------|---------------------|-----------------------|--|---|------|
| 1 安全で信頼される公共交通 | (1) 安全性の向上 (P28) | ① 施設の計画的な改良・更新 | 十字街～魚市場通の軌道改良工事(L=129.5m)と、十字街交差点改良工事に伴う基本設計業務委託および十字街～函館駅前間の電車線支柱新設工事を実施しました。また、令和4年12月16日発生の脱線事故に係る再発防止策を検討しました。 | 電車停留場安全地帯へのスロープ設置、電路の改良、軌道の改良、軌道分岐器の更新などを実施しました。 (軌道改良延長 L=1,025.7m/6年) また、脱線防止策の検討を行いました。 | C |
| | | ② 運転技能向上への取り組み推進 | 立哨、添乗指導や実際の運行画像を使用した事故防止研修を実施しました。 | 立哨、添乗指導や事故防止研修を実施するなど、輸送の安全を確保するための取り組みを進めました。 | B |
| | | ③ 安全管理体制の強化 | 運輸安全マネジメントの推進に向けて、安全方針や安全重点施策を策定し、各種訓練や研修を実施しました。また、安全管理体制を確認するために内部監査を実施したほか、軌道事業業務継続計画(BCP)を新たに策定しました。 | 安全方針や安全重点施策を策定し、訓練や研修を定期的実施するなど、運輸安全マネジメントを推進しました。 | B |
| | | ④ 軌道内電車優先運行についての啓発強化 | 啓発リーフレットを市内自動車学校や街頭でドライバーに配布したほか(合計1,200枚)、企業局だより・ラジオによる広報を実施しました。 | 関係機関への啓発リーフレット配布や広報活動を実施するなど、軌道内電車優先運行についての啓発に努めました。 | B |
| 2 便利で快適な輸送サービスの提供 | (1) 快適性の向上 (P30) | ① 車両の改良・更新 | 1両の超低床車(車体部分)を購入しました。 | 12両の車体改良を実施し、2両の超低床車を購入しました。 (超低床車のうち、1両は車体部分のみ。R5に台車部分を購入予定) | B |
| | | ② 職員の接遇マナーの向上 | 国立視力障害センターから外部講師を招いて、視覚障がい者への乗降支援について実車を用いた研修を実施しました。 | 外部講師を招いて接遇研修を実施したほか、インバウンド接客研修会に参加するなど、接遇マナーの向上に向けた取り組みを進めました。 | B |
| | (2) 利便性の向上 (P31) | ① 情報発信の強化 | ロケーションシステム導入について、費用対効果を含めた利便性の高い仕様の機器の導入実験を行いました。 | 電車内の液晶ディスプレイを利用した情報発信を実施したほか、車内放送の多言語化の充実やグーグルマップで目的地への経路検索等を可能とするなど、情報発信の強化に努めました。 | B |
| | | ② ICカードシステムの活用 | 函館エリアでのICカード導入5周年キャンペーンを商業施設と連携して実施し、ICカード利用促進および普及を図りました。 | IC定期券の運用を開始したほか、ICデータを活用した利用動向分析を実施し、更なる利便性の向上を図りました。 (ICAS-nimocaカード令和4年度末発行枚数 108,946枚、ICカード車内利用率 73%)また、IC定期券導入時には、学割定期の割引率の引き上げを行ったほか、新たに6ヶ月定期を導入しました。 | B |
| | | ③ 乗客需要に見合った適切な運行本数の確保 | ICカードデータを利用し利用動向調査を実施したほか、利用者の状況に応じ、日中を8分間隔とするダイヤ改正を実施しました。 | 乗客需要の調査や状況に応じた増車運行を実施したほか、令和2年度に日中を7分間隔とするダイヤに見直し、令和4年度には日中8分間隔とするダイヤ改正を実施するなど、適切な運行体制の確保に努めました。 | B |
| | | ④ 料金体系についての調査研究 | ICカードデータを利用し電車・バス間の乗り継ぎ移動や定期券の利用実態調査を実施しました。 | IC定期券導入へ向けて、割引率や期間などの見直しについて検討を進めました。また、ICカードデータ利用による定期券の利用実態や電車・バス間の乗り継ぎ実態の調査を実施しました。 | B |
| | | ⑤ 交通機関相互の連携強化 | 函館バスと連携し、電車・バス間の乗り継ぎ調査を実施し、紙券での乗り継ぎ利用について検証を行ったほか、イベントを開催した場合の運行において、引き続き連携を確認しました。 | 函館バスと連携しICAS-nimocaカードを導入し、乗り継ぎ割引制度を拡充しました。 | B |
| | | | | | |

A : 完了した・計画を上回っている

B : 概ね計画どおりに進んでいる

C : 計画を下回っている

D : 著しく計画を下回っている

- : 評価なし

交通事業経営ビジョンにおける主要施策の取り組み状況と評価

| 基本方針 | 施策目標 (経営ビジョン該当頁) | 主要施策 | 取り組み状況(R4) | これまでの取り組み状況(H29～R4) | 累積評価 |
|-------------|---------------------------|-----------------------------|---|---|------|
| 3 まちや地域への貢献 | (1) 地域社会への 貢献 (P32) | ① 地域を支える取り組みの 推進 | 地域イベントや修学旅行に対応するため、増車および貸切運行を行いました。また、車体広告についてガイドラインの見直しを継続して行いました。 | 地域のイベントなどに協力した増車運行を実施したほか、中心市街地活性化事業により、松風町、千代台の停留場を改良するなど地域を支える取り組みを進めました。また、策定から一定期間経過した車体広告のガイドラインの見直しに着手し、函館の歴史的な景観に配慮した取り組みを進めました。 | B |
| | | ② 人にやさしい公共交通へ 向けた取り組みの推進 | 1両の超低床車(車体部分)を購入しました。 | 超低床車両を導入したほか、安全地帯へのスロープ設置、停留場をバリアフリー対応に改良するなど、人にやさしい公共交通へ向けた取り組みを進めました。 | B |
| | | ③ 環境負荷の低減 | 運輸支局と環境部等との連携により、スマートムーブデーの取り組みを実施しました。 | エネルギー効率の良い車両を導入したほか、ノーマイカーデーなどの啓発活動を実施するなど、環境負荷の低減に努めました。 | B |
| 4 経営基盤の強化 | (1) 収益力の向上 (P33) | ① 市電の利用促進 | 人気アニメキャラクターを使用した市電1日乗車券を販売し、利用促進を図りました。 | 旅行代理店への営業を行ったほか、車内放送の多言語化の拡充や利用促進に係るチラシを各戸に配付しました。また、新たなスマホ乗車券の販売試行や新たな販売方法の開発など、利用促進に向けた取り組みを進めました。 | B |
| | | ② 広告料収入の確保 | 車内広告料制度での広告料金・最低掲出期間・長期割引制度を見直し、令和5年度からの新制度適用の準備を進めました。 | 広告料金について車体広告の割引制度の見直しを行ったほか、意匠許諾を行うなど、収入の確保とイメージアップに向けた取り組みを進めました。 | B |
| | (2) 経営の効率化 (P34) | ① コスト縮減の取り組みの 推進 | 過年度から実施している新たな防錆塗料の試験塗布の経過観察や車両検査周期延伸の試行を継続して実施しました。 | 新たな防錆塗料の試験塗布や車両検査周期延伸のための試行など、コスト縮減の取り組みを進めました。 | B |
| | | ② 効率的な組織づくり | 運行ダイヤの改正に伴い、交通部事業課における職員数を見直しました。 | 他都市の民間への委託内容を調査したほか、各課の業務分析の実施など、効率的な組織体制の構築に努めました。 | B |

A : 完了した・計画を上回っている

B : 概ね計画どおりに進んでいる

C : 計画を下回っている

D : 著しく計画を下回っている

— : 評価なし